

88 現任判事補検事補にして判事登用試験に及第した者の判事登用の儀に付請議  
〔明治二十年十二月〕

〔注記1〕  
司法省職第一二二七号

〔廢谷〕〔注記2〕  
〔谷森〕

〔注記3〕  
現任判事補検事補ニシテ判事登用試験ニ及第シタル者ノ儀ニ付請議

〔注記5〕〔注記4〕  
去ル十月初旬判事登用規則ニ依リ試験ヲ挙行シ現任判事補検事補ヲシテ之ニ応セシメ候得ハ多少及第スル者有之同規則第二條ニ依レハ右及第者ハ先ツ判事試補トナリ一箇年以上始審裁判所ニ試用セラルヘキ者ニ有之候抑モ試験及第者ヲ試用スルハ事務ヲ見習ハシムルノ趣意ニ出タル義ト存候然ルニ当度ノ及第者ハ孰レモ事務ニ習熟致シ居候得者此上試用スルノ必要無之儀ト存候本年一月司法省職秘第一三七号請議濟之趣モ有之今回ノ及第者モ右ト全ク同様之者ニ付矢張り試補ノ例ヲ用ヒス直チニ判事ニ登用相成候様致度此段請閣議候也

明治二十年十二月十五日

司法大臣伯爵 山田顕義

内閣総理大臣伯爵 伊藤博文殿

〔朱書〕  
請議ノ趣ハ其意見ノ通タルヘシ

明治二十年十二月二十三日

〔注記6〕  
明治二十年十二月廿日

〔廢谷〕〔金井〕〔谷森〕  
〔注記7〕

〔注記8〕  
内閣総理大臣 花押〔伊藤〕

法制局長官 印

各省大臣		外務		大蔵		海軍		文部	
内務	花押〔山恩〕	陸軍	〔大山〕	司法	〔山田〕	農商務	〔黒田〕	通信	〔櫻本〕

別紙司法省請議現任判事補検事補ニシテ判事登用試験に及第ノ者判事ニ登用ノ件ヲ審査スルニ本年一月試験ノ節モ右同様既ニ許可セラレタル先例モ有之今回ノ試験ニ於テモ現任判事補検事補ニシテ及第シタル者ハ判事登用規則第二條ノ試補及試用ノ例ヲ用ヒス直チニ判事ニ登用ノ儀請議ノ通り許可相成ルヘキモノト信認ス依テ指令按左ノ通ニテ可然哉

指令案

請議ノ趣ハ其意見ノ通タルヘシ

〔朱書〕  
〔明治二十年十二月二十三日〕  
〔福留〕

〔朱書〕  
参照

判事登用規則 十七年十二月廿六日  
太政官第百二号達

上略

第二條 法学士代言人及ヒ試験及第者ヲ登用スル時ハ先ツ始審裁判所ノ〔御用掛〕ヲ命シ一年以上事務ヲ見習ハシメ判事定員ノ欠アルニ随ヒ其本官ニ任スルモノトス

法学士ニシテ代言人タル者ハ二年以上其他ノ代言人ハ五年以上其業ヲ務メ学識経験卓絶ナル者ハ判事定員ニ欠アル時直ニ其本官ニ登用スルコトアルヘシ

〔御用掛〕 服務一年以上ノ者ハ時宜ニ因リ検事ニ登用スルコ

トアルヘシ

以下略

○

司法大臣請議 二十年一月二十七日

本月初旬判事登用規則ニ依リ試験ヲ举行シ現任判事補候事補ヲシテ之ニ応セシメ候エハ多少及第スル者有之同規則第二條ニ依レハ右及第者ハ先ツ判事試補トナリ一ケ年以上始審裁判所ニ試用セラル可キ者ニ有之候抑モ試験及第者ヲ試用スルハ事務ヲ見習ハシムルノ趣意ニ出タル義ト存候然ル<sup>(抹消)</sup>〔下〕<sup>(加筆)</sup>〔二〕当度ノ及第者ハ孰レモ事務ニ習熟致シ居候エハ此上試用スルノ必要無之儀ト存候就テハ此度ノ試験及第者ニ限り試補ノ例ヲ用ヒス直チニ判事ニ登用相成候様致度此段請閣議候也

指令 二十年三月二日

請議ノ趣ハ其意見ノ通タルヘシ

(注記1)

「法制局秘第四一號・十二月十五日」

(注記2)

〔落〕<sup>(改)</sup>〔山田〕<sup>(三好)</sup>〔落〕<sup>(改)</sup>〔山田〕<sup>(三好)</sup>

(注記3)

「法制局」「司法部」「行政部」<sup>(山田)</sup>〔落〕

(注記4)

「三十四」(簿冊内件名番号)

(注記5)

〔甲三〇六〕

(注記6)

〔司甲三〇六〕

(注記7)

〔會〕<sup>(欄)</sup>〔落〕

(注記8)

〔済〕

〔公文類聚 第十一編 明治三十二年 第五卷〕 2A, 11, 292